



モバイル決済が都会の隅っこまで浸透している中国

中国では、小売店におけるモバイル決済への対応が、消費者にとってあたりまえのことになっています。「支付宝 (Alipay)」や「微信支付 (WeChat Payment)」などの第三者モバイル決済が急速に普及し、北京や上海などの沿岸部主要都市では、大型ショッピングモールの店舗やコンビニエンスストアはもちろんのこと、多くの個人商店でも利用可能な状況です。かなり広域で利用できることから、最近では現金を使わない中国人が増えています。これに対応する形で小売業側も変化しており、今では現金を置かない店舗もみられるようになってきています。

【中国では、現金を持たずに暮らすことが可能になっている】

支付宝 (Alipay) と微信支付 (WeChat Payment) 2つのモバイル決済サービスのはげしい市場争いが中国で繰り広げられています。支付宝とは、日本ではアリペイと呼ばれ、馬雲氏が率いるアリババグループが提供する中国最大規模の電子決済サービスのことを指しています。微信 (WeChat) は中国版LINE (ライン) と言われ、中国の大手IT企業・テンセントが提供している電子決済サービスです。

「上海では現金を持たなくても携帯電話さえもっていれば、なんでも支払うことができます。日常生活の買い物だけではなく、通常の振り込みなどもできます。非常に便利です。ですから、財布や現金を持たずに携帯電話をもっていることを確認できた時点で、すっかり安心して外出できますよ。」とある上海で働いている若者が言いました。



モバイル決済を利用している場面

【海外へ進出している中国モバイル決済】

中国人観光客が世界中に飛び回っている背景で、中国で広く普及している電子決済サービス支付宝 (Alipay) と微信支付 (WeChat Payment) もこれまでに台湾、香港、日本、韓国、タイ、オーストラリア、ニュージーランド、シンガポールなどの国・地域に進出しています。今後、利用者が中国人観光客から拡大して、中国人観光客の訪問先の人々へと広がる可能性もあります。

株式会社ジェック経営コンサルタント上海事務所
皆逸希国際貿易 (上海) 有限公司 (高原)

ADD : 上海市長寧区遵義南路88号協泰中心2305室
E-mail: takahara@jeckc.cn TEL:021-61157061
<http://www.jeckc.cn/>